

# 業種別ゼミ概要 (WEB掲示用)

作成日：2026年3月31日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」		
ゼミ名	国際関係		
講師幹事名	鈴木 庸一/川村 泰久	大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子
学 期	R8 (2026) 年 <u>春夏</u> ・ 秋冬	開 講 時 間	水曜 4～5 時限

## 【授業の目的・到達目標】

- 日本の対外関係のマネジメントにおいて外務省が果たす機能とそれを現場で担う外交官の活動を理解する。
- 大国の力による外交が顕著になるなど不安定化し、不透明感の増す国際情勢を的確に判断する視座を養う。
- 拡散される種々の情報の裏にある国際社会の本質を理解する目を養い、日本の利益とは何かを議論する機会を作る。

## 【上記目的・目標達成方法】

- 外務省OB及び現役外務省員が講師として現場感覚を踏まえて外交とはどのように行うのか解説する。
- 講義と演習、ロールプレイを通じて講師と受講生さらには受講生同士のインターアクティブな質疑応答と議論を通じて外交の現場での考察力、判断力とはどのようなスキルか考える機会を設ける。
- 期末レポートでは日本の国益と国際情勢を判断するための自分なりの視座・基準をどのようにゼミを通じて養ったかを問う。

## 【授業の内容と計画】

月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 (※役職は作成日現在)	講義内容
4/22	鈴木 庸一 @国立キャンパス	S50 (法)	元駐フランス大使 元経済局長	(4 限) 本ゼミの序論として日本外交の主要課題を概観し、議論する。  (5 限) 経済外交を取り上げ自由で開放的な国際経済環境の醸成から自国の安全を重視する経済安全保障へと外交の重点が移る流れを議論を通じて考察する。
5/13	角 茂樹 @国立キャンパス	S52 (商)	玉川大学、朝日大学、岩手大学 客員教授、上智大学客員研究員 元ジュネーブ代表部公使、国連、バーレーン、ウクライナ大使	日本の安全保障： PKO 室長、防衛庁(当時)部員を務めた経験から、日本の安全保障に関して PKO 法、安保法制を武力の行使と武器の使用の観点から説明します。  ウクライナ情勢： 元ウクライナ大使の視点からロシアのウクライナ侵攻の原因、国際社会に与える影響について議論します。戦争法規(Jus ad Belum)、人道法規(Jus in Bello)の観点からロシアのウクライナ 侵略がいかに現在の法秩序を崩壊させるものであるかについて論じます。日本への影響として憲法9条と国際法との関係についても触れたいと思います。  人権と人道法： 中国の人権問題が問題にされていますが、そもそも人権とは、何かにつて元ジュネーブ人権委員会(現人権理事会)の日本政府代表を務めた経験から論じます。なぜ人権が重要なのかについて中世キリスト教神学にさかのぼり、世界人権宣言を中心に論じたいと思います。韓国との慰安婦の問題につて、これを外交的にどのようにとらえるかについても論じます。  いずれの授業において、外交官の役割についても触れたいと思います。

## 業種別ゼミ概要 (WEB掲示用)

5/20	須永 和男	S54(法)	元 ASEAN 大使 元 カタール大使 元 防衛省防衛研究所特任上席研究官	<input checked="" type="checkbox"/> ASEAN 外交 <input checked="" type="checkbox"/> FOIP <input checked="" type="checkbox"/> 日米安保
5/27	新見 潤			
6/3	(5 限) 齊藤 貢 @国立キャンパス	S55 (社)	元 オマーン大使 元 イラン大使 関西学院大学客員教授	<p>講師は長年、中東の諸問題に関わって来ました。</p> <p>05 月 28 日の講義では一昨年以來、不安定化している中東の情勢と日本と中東の関係について説明します。講師は、中東 7ヶ国で勤務し、英オックスフォード大学と米コロンビア大学の中東研究所にも留学しました。</p> <p>06 月 04 日の講義では、前半は前回の講義を踏まえ得て学生の皆さんから、日本と中東の関係についてどう思うか意見を述べて下さい。後半は、外交官の仕事について解説します。若しくは日本企業にとって重要な生産拠点であるタイについて説明します。</p>
6/10 及び 6/17	川村 泰久 @国立キャンパス	S56 (法)	元 国連大使 前駐カナダ大使 元 外務報道官 日本ユネスコ国内委員会委員 一般社団法人・霞関会理事長	<p><b>6/10 4 限(15:15-17:00)</b></p> <p><b>講義「国連と新国際秩序：ミドルパワー外交と日本の安全保障」</b></p> <p>カナダのカーニー首相が、戦後の国際秩序の終焉にあって新国際秩序に向けて「中堅国家」の連帯を主唱しました。国連の機能不全、米国トランプ政権の「自国第一主義」と権威主義諸国の威圧外交に直面する日本としてどのような安全保障戦略を構築していくべきかについて議論します。理性と秩序を重視するカナダの「ミドルパワー外交」の伝統を紹介しつつ、太平洋安全保障の「三本の矢」論についても講義します。</p> <p><b>6/17 4 限(15:15-17:00)</b></p> <p><b>演習「国連緊急特別総会でグリーンランド及びカナダの安全保障問題を交渉する(仮題)」</b></p> <p>講義で基礎知識を得た後は、テーマ(例：グリーンランド及びカナダの安全保障にかかる現実的な問題)を事前に与えますので、皆さん一人一人が日本・カナダ・中国・ロシア・韓国・英国・デンマーク、フランス、ドイツ、米国他各</p>

## 業種別ゼミ概要 (WEB掲示用)

				国の大使として国連緊急特別総会（仮想）に出席し、国連、NATO や他の同盟国や関係国はどう行動すべきかを提案・議論・そして決議へと導いて下さい。米国の戦略や各国が抱える課題はあるも国連での協議を通じて国際社会として望ましい一つの結論に導いていく外交をバーチャルに体験して下さい。
6/24				
7/1	神谷 政廣 +1 名若省員	H24 経  H27(商)	外務省大臣官房総務課 課長補佐 外務省経済局経済連携課 課長補佐	[4 限]外務省の組織体制に関する概要説明。 [5 限]日中関係 隣国で緊密な経済関係を持つ中国との関係は、日本にとって最も重要な関係の一つとなっております。一方、安全保障や経済面を含む多くの分野で急速に影響力を強める中国との関係においては、日本としても様々な懸念や課題があることも事実です。 ゼミの場では、今後中国とどのように向き合っていけば良いのかという大きな問を含めて議論しつつ、本省や在外公館における実務の場での取組について講師の経験を紹介できればと思います。
7/8	鈴木庸一/川村泰久 (仮置き)			取りまとめの議論

### 【参考文献】

下記図書のうちそれぞれの講師が個別に推薦するものはその旨括弧内に記載してありますが、今回の国際関係ゼミの一連の講義は相互に関連しており、また特定の事象を複数の講義で様々な角度から取り上げるところがあるので、いずれの参考文献図書も読んでおくことはゼミ全体を通じて有益です。尚各講師が特定の講義に臨むに当たり特に読んでおいた方がよいと考える図書や部分がある場合にはゼミ学生幹事より改めて連絡することがあります。

- 外交青書及び防衛白書（主として総論部分）
- 日本国際問題研究所 戦略年次報告（日本国際問題研究所 HP より無料で見ることが出来る）
- Joseph S Nye, Jr.: Soft Power（要旨はネットで検索可能）外交の本質を理解する上で有益
- 岡本行夫「現場主義の貫いた外交官」(朝日文庫) 現場感覚を持って外交官の問題意識を理解する上で有益
- 「危機の外交 岡本行夫自伝」(新潮社)
- 「ウクライナ侵攻とロシア正教会」角茂樹著 河出夢新書（角講師推薦）
- 田中明彦『アジアの中の日本』(日本の<現代>2)2007年 NTT 出版（
- 国分良成他『日中関係史』、有斐閣アルマ、2013 年
- 齊藤貢、2022 年、「イランは脅威か—ホルムズ愛嬌の大国と日本外交」、岩波書店（齊藤講師推薦）
- 酒井啓子、2013 年、「中東の考え方」、講談社（同上）
- 池内恵、2016 年、「中東の大混迷を解く サイクス・ピコ協定 100 年の呪縛」、新潮社（同上）
- 「国際連合」明石康著 岩波新書（川村講師推薦）
- 「国際秩序」ヘンリー・キッシンジャー著(2022 年 日経 BP 社)(同上)

## 業種別ゼミ概要(WEB掲示用)

### 【受講生に対するメッセージ、希望】

- 本ゼミを通じて国際情勢を理解する目を養うと同時に外交官と言う職業はどのようなものについての理解を持ってもらいたいと思います。
- 学生幹事を通じて講師より事前に課題が出される場合は準備してゼミに臨んでください。
- 基本は各講義とも前半は基本的知識についての講義、後半はラウンドテーブル形式の議論と言う構成になります。議論への積極的な参加を期待します。
- 各講義について自分なりの疑問点、特に関心のある問題について議論したいことを予め整理しておくの良いと思います。ゼミテンからの質問や問題提起があればそれを受けて講義を進めます。基本的な質問、初歩的な質問を歓迎します。
- 講義日程については外交日程等の都合により変更の可能性があります。
- ある程度の数の希望者がいれば締めくくしの総括講義に換えて講師一同と学生の間での軽食を挟んでの気軽な懇親の機会をゼミの終盤に如水会館で設けます。